

平成 23 年度 第 1 回 西宮市立中央病院 改革プラン評価委員会 議事録(要旨)

開催日時：平成 24 年 3 月 24 日 午後 6 時 30 分から午後 7 時 15 分

開催場所：西宮市立中央病院 講義室（3 階）

出席委員：楽木 委員長、谷澤 副委員長

伊藤 委員、竹政 委員、田原 委員、中尾 委員（50 音順）

事務局：左近 院長、池田 副院長、藤田 医療技術部長、佐竹 事務局長 ほか事務局職員

次第（議事）

- |   |
|---|
| <p>( 1 ) 改革プラン平成 23 年度の取組状況について</p> <p>( 2 ) 西宮市新病院基本構想について</p> <p>( 3 ) 新改革プランについて</p> |
|---|

（事務局）

【「(1)「改革プラン平成 23 年度の取組状況について」の説明】

（委員）

全体的には“横ばい”、あるいは“改善”という指標が目立つ。昨年度よりも悪化している指標は見受けられない。ただし、達成度という点に関しては、決して 100 パーセントではないという自己評価がなされている。

（委員）

県立西宮病院との連携の推進について、具体的には難しいとは思いますが、今後どのように取り組む予定か。

（事務局）

県立西宮病院と当院とでは、それぞれ得意とする診療分野が異なるので、お互いの得意分野の患者については、紹介・逆紹介を行い、連携を取りながら医療資源を効率的に使用できるように努めたい。

（委員）

県立西宮病院に限らず、兵庫医科大学病院などとの連携は考えられないのか。

(事務局)

国は、それぞれの病院の機能に応じてそれぞれ役割分担しながら相互に連携を図るような医療体制を推進している。兵庫医大は3次救急の病院であり、今後はよりいっそう連携を強化していきたいと考えている。また、兵庫医大、県立西宮病院のみならず、市内の各診療所、病院等ともより密接な関係を築いていきたいと考えている。

(委員)

この話は改革プランの「地域全体の医療向上」という項目の中の病診連携にも関係するような内容であり、達成度を50パーセントと評価している部分にあたる。中央病院と関連する病院はいろいろとあるので、それぞれと連携を図っていく必要があると思うが、そのなかでも県立西宮病院に関しては、すでに改革プランの中で病病連携の主要な取組みとして掲げているものなので、このような評価になっているのではないかと理解している。

(委員)

中央病院にそもそも診療科が存在しないから他病院へ紹介を行うという場合の他に、診療科は存在するが、県立西宮病院や兵庫医大など他の病院の方がより専門的な治療を受けられるから紹介するといった場合もあるのか。

(事務局)

お見込みのとおり。国が示すガイドラインでは、特に公立病院間におけるネットワークの連携を推進しており、それをこの改革プランでも特出ししている。病病・病診連携では市内の全ての医療機関において相互の連携が必要になっている。

(委員)

県立西宮病院との連携について、一つには将来的に統合も検討してはどうかと考えるが、現時点でその可能性はあるのか。

(事務局)

改革プランを策定する以前の「あり方検討委員会」の後にもいろいろと検討し、また、県立西宮病院とも協議する機会があったが、一つには、県立病院全体で公営企業になっており、県立病院自体がなかなか合併などについて考えられない状況にある。さらには、県立西宮病院は平成7年の震災の年に大規模改修(建て替え)を行っており、それからまだ十数年で、20年も経っていないということになると、合併などについて考える体制ではないというのが、我々の感触である。将来的な課題と考えているが、いまのところは現実的な問題としてその協議が進んでいるとか、話し合いをしているとかいうことはない。

(委員)

実際に、中央病院から県立西宮病院へ患者を紹介する頻度、もしくは県立西宮病院から紹介を受ける頻度はどの程度あるのか。

(事務局)

正確なデータは今手持ちにはないが、呼吸器疾患の患者については、かなりの頻度で県立西宮病院からの紹介を受けている。一方、当院から県立西宮病院にお願いしているのは、白血病など血液疾患の患者である。また、重度の腎臓疾患についても比較的多くの患者を紹介している。

(委員)

外科系で言えば、中央病院が主力としている消化器系は、県立西宮病院と競合するのでは。

(事務局)

お見込みのとおり。ただし、消化器系の疾患は一般的な病気であり需要も多いため、当院も県立西宮病院もお互い成り立っている。

(事務局)

【(2)「西宮市新病院基本構想について」の説明】

【(3)「新改革プランについて」の説明】

(委員長)

基本構想及び新改革プランは本委員会における評価の対象にはなっておらず、本委員会はあくまでも先ほどの改革プランの評価を行ったところで終了ということになる。これまでの委員会の評価に基づいて事務局が今後の中央病院の方針を計画されたという経緯もあって、事務局から新しいプランの説明があったと理解している。

「移転整備等検討委員会」の答申にはかなり厳しい内容が示されており、それに沿った評価がきっちりなされなければ、また、この新しい改革プランのなかで遂行できなければ、実現させるのはなかなか難しいという項目も含まれているように思われる。いずれにしても答申や答申に基づく改革プランとしては、一つ一つを丁寧におさえられて計画されているような印象である。

< 基本構想及び新改革プランに対する委員からの意見・質問は特になし >

(事務局)

委員の皆さまには、平成 21 年度より改革プラン評価委員会の委員として、3 年にわたり点検・評価をお願いしてきたが、今年度末をもって任期が満了する。これまで改革プランの点検・評価に際して、貴重な意見をいただいたことに感謝申し上げたい。

(院長)

委員の皆さまにはこれまでに、3 年間にわたり貴重なご意見をいただきましたことをこの場を借りて御礼申し上げたい。これまでの3 年間、医療の向上という面から見ると、いろいろセンター化等を図り、それらについては一定の成果があったように思うが、ただ、病院全体の経営改善というところまでは至らず、慢性的な赤字体質の抜本的な解消には至っていない。今後いっそう努力して取り組んでいく所存である。来年度は、新病院の整備に向けて基本構想を具体化するために基本計画を策定することになっている。委員の皆さまからいただいた意見を参考にして、職員一丸となってさらに努力していきたいと考えている。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いしたい。

(委員長)

これにて委員会を閉会とする。